

第 20 回 大会 を 顧 り み て

川 本 春 雄 (広島市)

第20回という大きな節目に当り、平和宣言都市広島で開催されたことは、誠に意義深いものが数多く「三滝ホタルの里保存会」は勿論のこと、町内地元にとっても改めてホタルに関する認識を高揚することができました。

大会では、人間の手によって姿を消していったホタルを供養するとともに、被爆による約 500 基の原爆無縁墓に、会員を代表して浅田氏が献花し、全員が黙とうしました。続いて、近くの三滝川に移動し、全国から持ち寄ったホタルの成虫約 800 ～ 1,000 匹位と約 200 匹近い幼虫を、地元のボーイスカウト 9 名の手によって放出されました。

ホタルは青白い光を放ち、平和を願うように飛び交っていましたが、4 日間でほとんどいなくなりました。

しかし、その頃から、飼育したホタルも飛び交い、7 月12日まで意外と長い間観賞することができました。

この度のホタルの輿入れを契機に、原爆の閃光をホタルの光にかえようと願う全国会員の気持が、広島大会において、いっそう盛り上がったような印象を受けました。

色々と御協力・御指導を保存会に下さいました方々に、厚く御礼申し上げます。

広 島 大 会 に て

中 島 重 徳 (福岡県大木町)

第20回全国ホタル研究大会が6月5～6日広島で盛会に行われた。昨年、福岡大会の係として、本年は柳川青少年生物教室におけるホタル保護活動についてと題して、参加者に実践を発表することができ、二重の喜びである。原爆で亡くなられた方々への慰霊・献花と、全国より持ち寄った「平和の使者」、ホタルとその幼虫を三滝川へ放流できたことは感銘深く、元気に育ってくれるよう祈る。

全校生徒へもこの記念行事のことや平和について講話を行った。三滝ほたるの里保存会の川本春雄氏にとくにお礼を申すと共に、10年目ごとの節目には広島・長崎の平和の地での開催を願っている次第です。